



IB CONTINUUM
CONTINUUM DE L'IB
CONTINUO DEL IB

国際バカロレア（IB）の教育とは？



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional



IB CONTINUUM
CONTINUUM DE L'IB
CONTINUO DEL IB

国際バカロレア（IB）の教育とは？



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

IBの一貫教育プログラム

国際バカロレア（IB）の教育とは？

2013年8月に発行の英文原本 *What is an IB education?* の日本語版
2014年6月発行

本資料の翻訳・刊行にあたり、
文部科学省より多大なご支援をいただいたことに感謝いたします。

注：本資料に記載されている内容は、英文原本の発行時の情報に基づいています。

非営利教育財団 国際バカロレア機構
(International Baccalaureate Organization)
15 Route des Morillons, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland

発行所
International Baccalaureate Organization (UK) Ltd
Peterson House, Malthouse Avenue, Cardiff Gate
Cardiff, Wales CF23 8GL, United Kingdom

ウェブサイト：www.ibo.org

© International Baccalaureate Organization 2014

国際バカロレア機構（以下、「IB」という。）は、より良い、より平和な世界の実現を目指して、チャレンジに満ちた4つの質の高い教育プログラムを世界中の学校に提供しています。本資料は、そうしたプログラムを支援することを目的に作成されました。

IBは、資料の中で利用する多様な情報源について、情報の正確さと信憑性を確認します。ウィキペディアのようなコミュニティーベースの知識源を使用する際には、特に留意します。IBは知的財産の原則を尊重し、利用する著作物すべてについて刊行前に著作権者を特定し、許諾を得るよう常に努力します。IBは、本資料で利用した著作物に対して許諾をいただいたことに感謝するとともに、誤記および遺漏がありました場合には、可能な限り早急に訂正いたします。

本資料に関するすべての権利はIBに帰属します。法令またはIB内部規則もしくは方針に明記されていない限り、IBの事前承諾書なしに、本書のいかなる部分も、形式と手段を問わず、複製、検索システムへの保存、送信を禁じます。詳しくはwww.ibo.org/copyrightをご覧ください。

IBの商品と刊行物は、IBストア (<http://store.ibo.org>) でお求めください。ご注文については、販売・マーケティング部にお問い合わせください。

電子メール：sales@ibo.org

International Baccalaureate、Baccalauréat International および Bachillerato Internacional は、International Baccalaureate Organization の登録商標です。

IBの使命

IB mission statement

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

目次

はじめに	1
I Bの学習者	4
学習者と I B 認定校	4
I Bにおける「指導」と「学習」	6
教育におけるグローバルな文脈	8
多言語主義と多様な文化の理解	8
グローバルな関わり	9
意味のある学習内容	10
おわりに	12
参考文献	13

はじめに

本資料は、国際バカロレア（IB）の教育の中心に横たわる考えをわかりやすく伝えることを目的としています。教育者やIB教育の賛同者、そして児童生徒とその家族を対象に、IBの全プログラムに共通する教育理念について解説します。またIBの教育理念を知ることは、プログラムの導入に向けた認定プロセスの段階にある学校や、継続的にプログラムを実施している学校にも役立ちます。

「IBディプロマプログラム」（DP）は、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして1968年に創設されました。世界の複雑さを理解し、そのことに対処できる生徒の育成を目指しています。また、未来への責任ある行動をとるための態度とスキルを身につけることに力を入れています。DPは、より公正で平和な世界の構築に資する人間の育成には、教科の枠をはじめ、文化的、国家的、地理的な境界をこえた教育が必要であるという信念に基づいて構想されました。

IBはその後、1994年に「IB中等教育プログラム」（MYP）を、そして1997年に「IB初等教育プログラム」（PYP）を設置し、国際教育に取り組む、3歳から19歳までの幼児および児童生徒を対象とした一貫教育プログラムを確立しました。さらにその10年後には、全プログラムに共通する「IBの学習者像」を策定し、すべての対象年齢層に向けて国際的な視野をもつ学習者が目指すべき人物像を示しました。各プログラムはそれぞれチャレンジに満ちた、独立した教育課程ですが、「IBの学習者像」がこれらのプログラムをつなぐ重要な共通基盤となっています。また、各プログラムでは、IBの教育方法が発達段階に即した適切な形で具現化されています。2012年には新プログラム「IBキャリア関連教育サーティフィケート」（IBCC）をスタート。16歳から19歳までの生徒に新たな国際教育の選択肢を提供し、IBの一貫教育がより豊かになりました。

IBの取り組みは、研究や40年以上にわたる教育実践に裏打ちされています。IB創設の礎となったビジョンは、今日もなおIBの成長を支え続けています。創設者たちから受け継がれた活力あふれるIBの精神は、IBの質の高い教育とそのため教員研修に継続的に力を注ぐ学校の増加を後押ししています。IB教育の実践に伴う責任を共有するこうした学校の輪はグローバルに広がり続けています。

本資料『国際バカロレア（IB）の教育とは？』は、絶対視されるべきものではなく、読者に役立つものであることを目指しています。したがって常に対話や定期的な見直しを重ねています。IBは、過去に積み重ねてきた考えや判断に価値を置く一方で、未来に向かって新しい事物に開かれた姿勢を常に大切にしてきました。難題にも批判的に向き合う姿勢を重視しているのです。そのような姿勢は、「教育を通じてより良い世界を築く」という使命のもとに結びつき、互いに協力し合うグローバルなコミュニティの構築を目指すIBの取り組みに見ることができます。

「IBの学習者像」は、IBの教育理念を具体化したものです。IBの教育理念の根底にある価値観を共有するグローバルなコミュニティーが目指すべきところを端的に表しています。また、国際的な視野を育む教育が目指すべき人物像や成果を示しています。

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育成します。

IBの教育には、上記の価値観に即した次のような特徴があります。

- ・ 学習者を中心に置きます。
- ・ 「指導」と「学習」において効果的な方法を展開します。
- ・ グローバルな視野に立って取り組みます。
- ・ 意味のある学習内容を探究します。

これらの4つの特徴が一体となって、IBの教育を形づくっています。



IBの学習者

IBの国際教育の中心となるのは、3歳から19歳までの幼児および児童生徒です。彼らにはそれぞれの学習スタイルや長所、課題があります。どの児童生徒も年齢にかかわらず、世界や自分の居る場所について、独自の、または共有された価値体系や知識、経験をさまざまな組み合わせでもっています。

IBは、理解と尊重の精神に基づく開かれたコミュニケーションを奨励し、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう児童生徒に働きかけています。IBの教育は、本質的に全人的な教育です。IBプログラムは児童生徒の認知的発達と同時に、社会的、情緒的、身体的な発達にも取り組みます。また、児童生徒が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティで積極的かつ思いやりのある一員になることを重視しており、そのための実践の機会を提供します。IBプログラムは、「IBの学習者像」に示される国際的な視野を育む学習の価値と成果に重点を置いています。

IBの学習者は、「探究する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニケーションができる人」「信念をもつ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りができる人」になることを目指します。これらの人物像は、知的成長や学習面での成功にとどまらない、人間としての幅広い能力と責任感を育むことを意図しています。また、これらの人物像を通じて、学校コミュニティの全員が自分自身をはじめ、他の人々、そして自分たち自身を取り巻く世界を尊重する人になるよう働きかけます。

IBプログラムは、すべての児童生徒に対して、IBカリキュラムへのアクセスと学習への参加を増やすことを目指しています。学習への参加を妨げる障壁を特定して取り除くことで、誰もが学びに参加し貢献できる、より「インクルーシブ」な学習コミュニティの形成に努めます。多様な児童生徒の学習への参加を増やす取り組みは、「IBの学習者像」を実現することにつながっています。

学習者とIB認定校

IBワールドスクール（IB認定校）では、「IBの学習者像」に基づき、学習者を中心とした教育を実践します。IBプログラムでは、学校における以下の取り組みを奨励します。

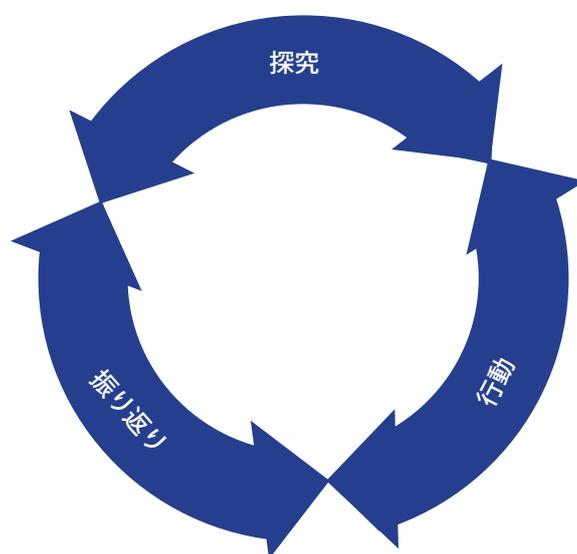
- ・ 健全な人間関係や、個人責任、共同責任、効果的なチームワークや協働を促す教育の場をつくる取り組み
- ・ 児童生徒が情報に裏づけられた理性的で倫理的な判断を下し、意味のある変革をもたらすために必要な柔軟性や粘り強さ、自信を培うよう援助する取り組み
- ・ 児童生徒が疑問を提示し、個人的な志を追い求め、チャレンジに満ちた目標を設定し、それを達成するための根気強さを養う取り組み
- ・ 個人的にも文化的にも豊かなアイデンティティの構築を奨励する取り組み

このような取り組みによる教育の成果は、主に教師と児童生徒の関係によって形成されます。教師は、児童生徒を知的に導く存在です。児童生徒から自信と責任感を引き出す役割を担います。チャレンジに満ちた学習環境は、児童生徒が自分自身や他の人々の必要を満たすために欠かせない想像力と意欲を高めるのに役立ちます。

IBプログラムでは、「学び方を学ぶ」ことに重点を置いています。児童生徒が学習環境と効果的に関わり合うことを助け、日々の暮らしから切り離すことのできない本質的なものとして学習に価値を見いだすよう促します。

IBにおける「指導」と「学習」

IBにおける「指導」と「学習」では、意味を構築し、世界を理解するために人々がさまざまな方法で協力し合うことを重要なものとして捉えています。また、この構成主義的な考え方に基づき、質問すること、行動すること、考えることの相互作用を通じて、開かれた民主的なクラスを目指します。IBの教育は、学習者がひとりで、または他の人々と協力して生涯学び続けるための力を引き出します。また、「探究」(inquiry)、「行動」(action)、「振り返り」(reflection)を通じて、「学び合う者たちのコミュニティ」がグローバルな課題に取り組めるよう準備します。



探究

持続的な探究は、IBプログラムにおいて、指導計画 (written curriculum)、授業方法 (taught curriculum)、および評価計画 (assessed curriculum) の中心に位置づけられています。確立された知識体系と複雑な問題の双方に対して系統的な探究を行うことは、IBプログラムの特色です。この方法では、児童生徒がすでにもっている知識や経験が新たな学習の土台となります。また、児童生徒自身の好奇心が、関連性があり、チャレンジに満ちた意味のある学習に取り組む意欲を喚起する原動力となります。

行動

信念のある行動は、学習指導の一環として取り組む場合や、学習成果として行われる場合のいずれにおいても、実践的で実社会での経験から学ぶことを重視するIBの「指導観」や「学習観」を表しています。IBの学習者は家庭や教室、学校、地域社会、そしてより広い世界で行動します。行動には実践を通じた学習が伴い、自分自身と他の人々について

より良く学ぶことができます。IB認定校では、規範ある誠実で正直な行動や、個人と集団の尊厳を尊重する強い公正性に基づく行動を重んじます。

信念のある行動は責任ある選択を意味し、それは時に行動しないという決断も含まれます。個人も、組織も、コミュニティーも、個人的な課題やグローバルな課題の倫理的側面を探究することで、信念ある行動と向き合います。IBプログラムにおける「行動」には、サービスラーニング（奉仕活動を通じた学習）、アドボカシー（権利擁護や提言）、自己や他の人々への教育なども含まれています。

振り返り

批判的^{クリティカル}な振り返りは、好奇心や経験をより深い理解につなげるためのプロセスです。振り返りを行う人は、その根拠や方法、結論を批判的^{クリティカル}に認識しなければなりません。また、振り返りは自分自身や他の人々の成果物や作品の中に先入観や不正確さがあり得ると意識することにもつながります。

IBの教育は、創造性と想像力を育み、児童生徒に人間の思考の本質を考える機会を提供します。また、物事を記憶するだけでなく、自分自身の考えや取り組み、そしてそこから生まれる成果や業績を分析するために必要なスキルと働きかけを身につける機会を与えます。

IBプログラムは、「探究」「行動」「振り返り」を通じて、思考や自己管理、社会的なコミュニケーション、研究などのためのさまざまなスキルを発達させることを目指しています。これらはIBプログラムでは「学習の方法」^{アプローチ}（approaches to learning）と呼ばれています。

効果的な「指導」と「学習」には、意味のある評価が必要です。IB認定校では、児童生徒を評価する目的、到達度を測る評価規準、および評価方法の明確化に努めています。IBプログラムでは、さまざまな形の評価がカリキュラムと一体となり、継続的に実施されています。評価には、正規評価と非正規評価、形成的評価と総括的評価、学校内での内部評価とIBによる外部評価などがあります。自分自身や他の人々の学習成果物をどう評価するかを学ぶことも児童生徒にとって有益です。

また、IBの児童生徒は、学習成果を整理統合し、身につけた知識や能力を発表します。その集大成がPYPの「発表会」^{エキシビション}、MYPの「パーソナルプロジェクト」、DPの「課題論文」(EE)、およびIBCCの「振り返りプロジェクト」^{リフレクティブ}です。児童生徒が身につけた知識や理解、スキルを発表するにあたって、場合によっては学校コミュニティー全体がフィードバックや支援を提供します。

教育におけるグローバルな文脈



I Bプログラムは、急速に変化する、きわめて密につながり合った世界で、グローバルな文脈での国際的な視野の育成を目指しています。「国際的」と「地球規模的」という言葉は、それぞれ世界を異なる視点から表現しています。「国際的」が、構成要素（国家間の関係）に基づく見方である一方、「地球規模的」は、地球を1つの全体とした見方です。近代国家の領域をこえる団体組織やテクノロジーが次々と出現する中、「地域社会」(local)、「国」(national)、そして「グローバル」(global)の明確な区別はあいまいになっています。従来の境界が通用しない世界に生じている数々の新たな課題は、児童生徒に複雑な世界で建設的に生きるために必要な機敏さと想像力を身につけることを求めています。

I Bの教育では、言語と文化の理解を深めることのできる「学びのコミュニティー」を築き、児童生徒がよりグローバルに活躍できるよう援助します。

国際的な視野を育成する教育は、世界を「最大の学びの文脈」として捉える学習環境を築くことにかかっています。I B認定校は、真にグローバルな「学びのコミュニティー」を構築し、維持することのできるI Bの理念と組織、カリキュラムの下で、教育水準と実践を互いに共有しています。児童生徒は学校で学習や他の人々との交流を通じて世界について学びます。グローバルな視点を踏まえた「指導」と「学習」は、「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者を育てること」を目的とする「I Bの使命」を支えています。

多言語主義と多様な文化の理解

I Bでは、2言語以上で幅広いコミュニケーションの方法を学ぶことを多様な文化を理解するために欠かせない基盤と捉えています。そのためI Bプログラムは、幅広い表現形態を用いた、複合的でダイナミックな学習を支援します。すべてのI Bプログラムにおいて第二言語は必修です。

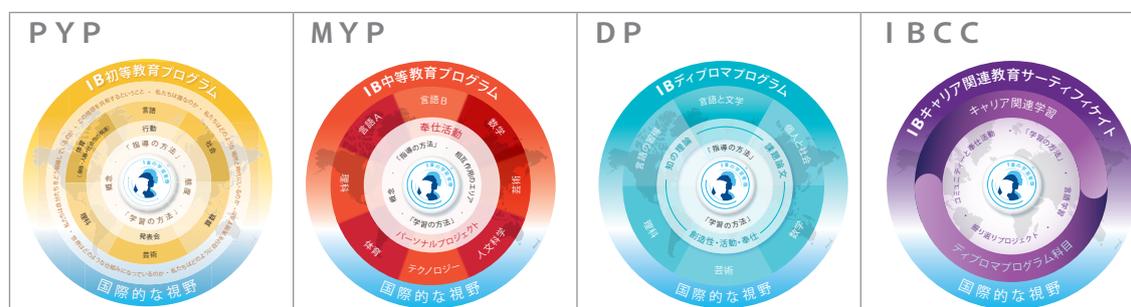
多様な文化を理解するためには、自分自身のものの見方、そして、他の人々のものの見方を認識し、振り返りを行う必要があります。I Bプログラムでは、多様な文化の理解を深めるために、異なる信念や、価値観、経験、知るための方法 (ways of knowing) を批判的に正しく理解する方法を身につけます。世界の豊かな文化的営みを理解するという目標に向けて、人間の共通性と多様性、そして人と人との結びつきを探究します。

グローバルな関わり

「グローバルな関わり」とは、教室の内外で、人類が直面する大きな課題に取り組むことを指しています。IBの児童生徒と教師は、グローバル社会および地域社会における諸課題を探究するよう奨励されています。環境や開発、紛争、権利、協力、統治などから、発達段階に合わせた課題を取り上げ、グローバルな関わりをもちながら、権力や特権について批判的に考察します。また、未来の世代のために地球とその資源が託されていることを自覚します。

IB教育のねらいは、グローバルな関わりをもつために必要な認識やものの見方、参加する姿勢を育成することにあります。IBは、人々がグローバルなコミュニティーのために尽力する積極的な学習者になるよう働きかけています。

意味のある学習内容



IBの教育は、教科学習と学際的学習の双方において理解を深める機会にあふれています。また、学習内容は世界各地の高等教育機関が設ける厳しい基準を満たしています。IBプログラムでは、幅広く、バランスのとれた、概念的で、関連性の高いカリキュラムの枠組みやコースを提供しています。

幅広くバランスのとれた学習内容

IBの教育では、児童生徒がさまざまな教科にまたがる幅広い内容にアクセスできるようにバランスのとれた教育方法を採用しています。PYPでは教科の枠をこえた学習を展開しています。MYPやDP、あるいはIBCCへと進む中で、児童生徒が取り組む教科の知識やスキルは次第に高度で複雑になっていきます。

概念学習

概念学習では、各教科や教科横断的な領域において関連性をもつ、幅広く、有力な考えを体系化することを重視します。概念は国や文化の境界にとらわれるものではありません。概念は、学習内容を統合し、カリキュラムに一貫性をもたせます。また、教科学習の理解を深め、複雑な考えに取り組む力を築き、学習内容を新たな文脈に適用するのに役立ちます。PYPとMYPではあらかじめ規定された「重要概念」^{キーコンセプト}に取り組み、DPとIBCCで概念理解をさらに深めます。

相互に関連する学習内容

IBのカリキュラムの枠組みは、学習の同時並行性（concurrency of learning）を重んじます。プログラムの中で、学習者は同時並行的に多くの教科に取り組み、関連性を見いだすことを学びます。また、多岐の分野にわたる知識や経験が相互に関連し合うことについての理解を深めます。各コースのねらいとプログラムの要件は、教科の枠にとらわれず世界について学べる真の機会を提供するよう設定されています。

PYPでは、さまざまな教科を通じて知識、概念、スキルを身につけ、それらを活用してグローバルな重要性をもつ教科横断的な6つのテーマを探究します。MYPでは、幅広い教科学習に加え、2つ以上の専門分野を組み合わせ、学際的な理解を新たに構築することも行っています。DPでは、多様な科目を学習するほか、DPの中核的要素「コア」を構成する「創造性・活動・奉仕」(CAS)を通じて、各自が身体的活動や創造的活動を展開します。DPの学際的な各コースとその要件は、教科の枠をこえた新たな課題や理解を探究する方法を提示します。また、「知の理論」(TOK)はカリキュラムの学習内容を横断的に関連づけます。IBCCでは、「コア」の構成要素がDP科目とキャリア関連学習をつなぎ、カリキュラム全体において理解を深められるようになっています。

IBプログラムにおいて、評価は「指導」と「学習」から切り離すことのできない要素です。児童生徒が何を学んだかを理解し、児童生徒の成長を把握することを目的として、教師は意味のあるフィードバックを提供するために、さまざまな評価方法を用います。IBの評価は、批判的で ^{クリティカル} 創造的な思考を要する真の理解を示すパフォーマンスを児童生徒に求めるため、授業の質を高めることにも貢献します。IBの一貫教育において、最終年次での最終評価には国際的に統一された基準が用いられます。PYPでの評価は、学習のプロセスについてのフィードバックを提供することを本来の目標としており、児童と教師による自己評価と振り返りを重視しています。児童の学習成果物の評価には、さまざまな方法を活用します。そうした方法では、児童が各自の学習体験を理解するのに用いる多様で複雑な方法を考慮に入れてあります。MYPでの評価は、綿密に設計されています。すべての教科で規準に則した厳格な内部評価(コースワーク)を適用するほか、IBが採点を行うコンピューターを用いた試験や、採点またはモデレーション(評価の適正化)の対象となる生徒のポートフォリオの提出などのオプションも設けています。DPにおける評価では、有効な測定方法による信頼できる結果の提供を目指しています。DPでは、コースワークとIBによる外部試験の双方の結果に基づいて、国際的に認知された大学への入学資格が与えられます。IBCCにおける評価は、有効で信頼性の高いDP科目での評価がIBCCの「コア」の総括的評価と形成的評価に組み込まれた形をとっています。

おわりに

IBの教育の特色は、学習面と人格形成面の育成で厳格な基準を定めている点にあります。IBプログラムは、児童生徒が学習面だけでなく、ひとりの人間としても大きく成長するよう促します。そして熱意と共感をもって生涯にわたり探究を続ける意欲を引き出すことを目指しています。IBは、これらを実現するため、IBに賛同する人々のグローバルなコミュニティーを築いています。そのコミュニティーでは、人類に共通する人間らしさを大切にし、教育がより良い世界を築くことに貢献するという信念を共有しています。

IBは、この高次の目的を「指導」と「学習」の実践の細部に結びつけます。IB認定校のグローバルなコミュニティーは、これらの原則を実践に移し、相互に責任をもちながら、質の高い教育の基準を開発しています。IBの教育は、協働^{コラボレーション}がもつ力の証です。

常に不確かな未来に直面する私たちにとって、教育は希望に満ちた営みです。IBの教育は児童生徒と教育者それぞれの最善なるものを引き出します。本資料を読んでくださっているみなさんと一丸となれば、複雑につながり合ったこの世界で、将来、児童生徒が活躍するための役に立てると信じています。

参考文献

本資料『国際バカロレア（IB）の教育とは？』の英語原本 *What is an IB education?* は、以下の英語による図書を含む、複数の観点および文献を参考にしました。

Audet, RH and Jordan LJ, (eds). 2005. *Integrating inquiry across the curriculum*. Thousand Oaks, California, USA. Corwin Press.

Bates, R, (ed). 2010. *Schooling internationally: globalisation, internationalisation and the future for international schools*. London, UK. Routledge.

Bok, S. 2002. *Common Values*. Columbia, Missouri, USA. University of Missouri Press.

Boix Mansilla, V and Jackson, A. 2011. *Educating for global competence: Preparing our youth to engage the world*. New York, USA. Council of Chief State School Officers and Asia Society Partnership for Global Learning.

Boyer, EL. 1995. *The Basic School: A community for learning*. Stanford, California, USA. The Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching.

Brooks, JG and Brooks, MG. 1999. *In search of understanding; The case for constructivist classrooms*. Alexandria, Virginia, USA. Association for Supervision and Curriculum Development.

Bruner, J. 1996. *Culture of education*. Cambridge, Massachusetts, USA. Harvard University Press.

Bruner, J, Goodnow, J and Austin, G. 1986. *A study of thinking*. New York, USA. John Wiley.

Collins, HT, Czarra, FR and Smith, AF. 1995. *Guidelines for global and international studies education: Challenges, culture, connections*. New York, USA. American Forum for Global Education.

Cummins, J. 2000. *Language, power and pedagogy*. Clevedon, UK. Multilingual Matters.

Delors, J, et al. 1999. *Learning: the treasure within. Report to UNESCO of the International Commission on Education for the Twenty-first Century*. Paris, France. UNESCO.

Dewey, J. 1909. *Moral principles in education*. In LA Hickman and TA Alexander (eds). *The Essential Dewey* volume 2. 1998. Bloomington, Indiana, USA. Indiana University Press.

Dewey, J. 1916. *Democracy and education: An introduction to the philosophy of education*. New York, USA. Macmillan.

Dewey, J. 1933. *How we think: A restatement of the relation of reflective thinking to the educative process*. Boston, Massachusetts, USA. Heath.

Doll, WE and Gough, N. 2002. *Curriculum visions*. New York, USA. Peter Lang.

Erickson, HL. 2008. *Stirring the head, heart and soul*. Heatherton, Victoria, Australia. Hawker Brownlow.

Fairclough, N, (ed). 1992. *Critical language awareness*. London, UK. Longman.

Gardner, H. 2011. *Frames of mind: The theory of multiple intelligences*. New York, USA. Basic Books.

-
- Gee, JP. 1990. *Social linguistics and literacies: Ideology in discourses*. New York, USA. The Falmer Press.
- Grant, CA and Portera, A. 2011. *Intercultural and multicultural education: Enhancing global connectedness*. New York, USA. Routledge.
- English, F, (ed). 2004. *Sage handbook of educational leadership*. Thousand Oaks, California, USA. Sage Publications.
- Hanvey, R. 2004. *An attainable global perspective*. New York, USA. American Forum for Global Education.
- Hicks, D and Holden, C. 2007. *Teaching the global dimension: Key principles and effective practice*. Oxford, UK. Routledge.
- Kincheloe, JL. 2004. *Critical pedagogy: A primer*. New York, USA. Peter Lang.
- Laverty, M. 2010. "Learning our concepts". *Journal of philosophy of education*. Vol 43.1. Pp 27-49.
- Grainger, T, ed. 2004. *The RoutledgeFalmer Reader in Language and Literacy*. London, UK. Routledge.
- McWilliam, E. 8–10 January 2007. "Unlearning how to teach". Paper presented at *Creativity or Conformity? Building Cultures of Creativity in Higher Education*. Cardiff, UK.
- Murdoch, K and Hornsby, D. 1997. *Planning curriculum connections: Whole-school planning for integrated curriculum*. Melbourne, Victoria, Australia. Eleanor Curtain Publishing.
- Perkins, D. 1995. *Smart schools: Better thinking and learning for every child*. New York, USA. Free Press.
- Perkins, D. 1999. "The many faces of constructivism". *Educational Leadership*. Vol 57.3. Pp 6-11.
- Piaget, J. 1970. *Structuralism*. New York, USA. Basic Books.
- Pike, G and Selby, D. 1989. *Global teacher, global learner (second edition)*. London, UK. Hodder & Stoughton.
- Schön, D. 1983. *The reflective practitioner: How professionals think in action*. London, UK. Temple Smith.
- Steinberg, S and Kincheloe, J, (eds). 1998. *Students as researchers: Creating classrooms that matter*. London, UK. Falmer.
- Stiggins, RJ. 2001. *Student-involved classroom assessment (third edition)*. Upper Saddle River, New Jersey, USA. Merrill/Prentice-Hall.
- Waxman, H and Walberg, H, (eds). 1991. *Effective teaching: Current research*, Berkeley, California, USA. McCutchan Publishing Corporation.
- Vygotsky, LS. 1986. *Thought and language (revised and translated by Alex Kozulin)*. Cambridge, Massachusetts, USA. MIT Press.
- Wiggins, G. and McTighe, J. 2005. *Understanding by design*. New Jersey, USA. Pearson.
- Wing Jan, L. and Wilson, J. 1998. *Integrated assessment*. Oxford, UK. Oxford University Press.